

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 248 号	2022年3月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	-------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

- 3月4日（金）修復活動の準備のため岡崎さん・辻野会員・原田会長で土嚢制作と粘土採取運搬をし、吉富会員に竹杭製作していただきました。
- 3月5日（土）臨時活動は、10時より1時間程度、会員5名が参加し、ため池横水路の土手補強（水漏れ防止のため）の作業を行いました。
- 3月6日（日）会員10名が参加し、水路の溝上げ、湿地帯護岸の補修、里山橋北・車置き場の護岸整備、除去草の撤去の作業を実施しました。
- 3月20日（日）会員14名が参加し、ため池の除草、資材置き場屋根の補修、除去草の焼却、ヨケジのオタマジャクシを旧蓮田へ移動の作業を実施しました。また作業と並行して会計監査を実施し、監査役の承認をいただきました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎行 事

- 4月3日（日）令和4年度「里山ビオトープ二俣瀬をつくる会」総会
- 4月10日（日）維持活動（草刈り）
- 4月16日（土）親子自然観察隊（結隊式・野草観察）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「 」 （ 記 ）

今回はありません。

5. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 （ 管 哲郎 記）

(73) オオムラサキ *Sasakia charonda* タテハチョウ科

このチョウは日本の「国蝶」です。山口県には昔はあちこちで見られましたが、今は萩市や山口市阿東の山中、徳地少年自然の家周辺などでしかなかなかお目にかかれなくなっています。特に秋吉台の周り、「秋吉台エコミュージアム」建設のために、そのエリア内に自生していた「エノキ」をすべて切り払ってしまいました。そのために秋吉台周辺で見られたオオムラサキは絶滅してしまいました、今は見られません。

ビオトープの中に1本植えられている「エノキ」はゴマダラチョウ、テングチョウ、ヤマトタマムシなどの生息場所ですので、大切に見守ってあげてください。残念ながらオオムラサキは近くに全くいませんので産卵してくれません。

成虫の発生時期は6月中旬～8月中旬が平均ですが、幼虫は「エノキ」の周辺の落ち葉の中で冬を越し、新芽の芽吹く4月半ばごろより幹を伝い枝先に上ります。新芽をむしゃむしゃ食べ大きくなり、6月になると蛹（サナギ）に変化しやがて脱皮し成虫に変身します。

縄張り意識が非常に強く、エノキの枝先で縄張りを張り、近づいてくる大型のチョウや小鳥などでも追い散らします。ふつうはチョウといえば鳥たちに食べられてしまいましたが、オオムラサキは片手を上げたくらい大きく、気性も激しいようです。筆者も樹上で大型のヒョウモンチョウを次々と追い立てる様子を目撃しています。

成虫になるとクヌギなどの樹液をなめにカナブンなどと一緒に見られますが、山口県では数が少なくそういうシーンはあまり見られません。長野県などに行けば柿の木や樹液の出る樹木で普通に見られます。

雄の羽の表面は紫色に輝きとても美しいのですが、そっくりさんにビオトープの近くを流れる厚東川に自生する”ヤナギ“の樹に生息する「コムラサキ」がいますので、「木田橋」の上から探せば見つかると思いますので、参考までに見つけてみてください。



5月 卵



2月 葉の間で越冬する幼虫



3月 樹に上る幼虫



4月上旬の幼虫



体色が緑色に変身



4月下旬の幼虫



5月上旬の幼虫



6月2日、前幼虫に



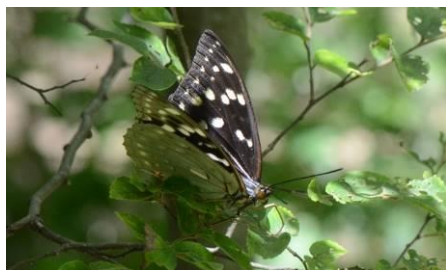
6月2日、蛹に変身



羽化の様子



オオムラサキ♂



オオムラサキ♀



11月 越冬前の幼虫

6. 会よりの連絡事項

- 1) 4月3日は総会で、二俣瀬ふれあいセンターで9時から開始です。

7. 編集後記 (中本 亜矢子 記)

コロナで社会活動が自粛されるようになって三年目の春。新規感染者数は5万人越え、山口県も毎日300人前後の感染者が出ている。撲滅したいが、ウィルスも変異株で生き残ろうと必死なので、この戦いは長期戦になるだろう。

この自粛生活が子どもたちに与える影響が気になっている。黙食、ソーシャルディスタンス、顔の表情がわからないマスクの着用。物心ついた時からそう躰けられたら、それが当たり前の感覚になってしまわないだろうか。冬のあとには必ず春がくるように、いつかはきっと日常生活が取り戻せると信じている。